

街を走る姿さえ、どこか非日常。
それがBMW Z4。
オーナーが語る、走りスタイルの本音。



/ Z 4

走りに華を添える、このZ4が今の“相棒”です
— まーさん@tboltさんが語る、オープンスポーツの魅力と走りの哲学

— Profile

ジムカーナ競技経験者。

現在はBMW Z4で“走りに華を添える”カーライフを満喫中。

走行性能とデザイン性を兼ね備えたクルマを愛し、阿讃サーキットをはじめ、日々のドライブもサーキットも全力で楽しむスタイル。
次なる競技復帰も視野に入れ、検討している。

美しさと実用性を備えた一台を
探して

「買うなら、電動ハードトップのオープンカー。って決めてたんです」
そう語るのは、数々の車を乗り継いできたまーさん@tboltさん。
ソフトトップ車にありがちな「クローズ時のデザインに納得できない」課題もあり、たどり着いたのがBMW Z4。
スタイルと実用性、セキュリティまでを高次元で満たした、理想の相棒。だった。



「オープン時はもちろんカッコいい。でも、このZ4はクローズ状態でも圧倒的に美しいんです。フロントからリアまで流れるようなプレスラインが、本当に上品で。」

見た目だけではない。まーさん@tboltさんは、元々ジムカーナやサーキット走行で入賞経験もある走りの実力派。クルマに求める基準は常に、走りの質にある。

走りに磨きをかける、こだわりのカスタム

「Z4は華やかに見えるけど、中身は本気です(笑)」
車高調、ブーストアップ、カーボンエアロ、そしてフルバケットシート。Z4のもつラグジュアリーな雰囲気にも、走り屋魂、が注ぎ込まれ、ストリートからサーキットまで幅広く楽しめる一台へと昇華されている。

「以前、MR2でジムカーナに出てました。阿讃サーキットはホームみたいなものですね」
走るステージが変わっても、根底にある、楽しさを求める走り、は今も変わらない。

ちなみに、Z4購入時、ダイハツ・コペンも候補に上がっていたというが——
「天井に頭が当たっちゃって(笑)。それがなければ、乗ってたかもしれませんね。」



今を楽しみ、未来へつなぐ走りのスタイル

「このZ4は、ただの移動手段じゃないんです」

まーさん@tboltさんにとって、クルマとはライフスタイルそのもの。日々の街乗りも、サーキットでの熱走も、すべてを、特別な時間、に変えてくれる。

今後は競技復帰も検討中だという。未来の愛車候補には、GRヤリス、GR86、ケイマンGT4 RSといった魅力的なモデルが並ぶが、今はZ4との時間を存分に楽しんでいる。

「走りに華を添える。それがこのクルマの最大の魅力です」
華やかさと速さ、上質さと本気を同時に追い求める。

Z4は、そんなまーさん@tboltさんの人生にぴったり寄り添う、唯一無二の、走る相棒、だ。

EDITOR'S Note 編集後記

「走ることが好き」「愛車が好き」——取材を通して改めて感じたのは、好き、の力が人生を豊かにするということ。

まーさん@tboltさんのZ4へのまなざしは、ただの機械を見るそれではありませんでした。

そこにあったのは、相棒、への信頼と、共に過ごす時間への誇り。

ハードな走行を楽しみながらも、クルマとの付き合い方はどこかスマートで自然体。

「走りに華を添える」という一言が、そのすべてを表しているように感じます。

日常を特別にしてくれるクルマとの関係。

この誌面が、読者の皆さんの、クルマ愛、を再確認するきっかけになれば嬉しいです。



OWNER'S STYLE CHECK

► BASE MODEL

BMW Z4 (E89)

ハードトップオープン／直列6気筒ターボ

► カスタムポイント

- ・車高調導入で走行性能アップ
- ・ブーストアップで力強い加速を実現
- ・カーボンエアロで空力向上&スタイリング強化
- ・フルバケットシートでドライビングに集中

